

民間との協働による学校施設改修

北海道黒松内町教育委員会 教育長 若見 雅明



自然光が降り注ぐ光の道では、木製の大型テーブルを囲み、先生と生徒が、和やかに談笑している。新築と見間違うほど、明るく・温かく・快適にエコ改修された黒松内中学が、特別豪雪地帯である本町において、冬季通年施工により約半年で完成した。今更ながら、学校関係者、事務局業務の受託会社、設計会社、施工会社、アドバイザーの先生方、国や道、サポート本部の皆さんに心から感謝したい。

この事業では、改修前後を通じて、環境建築検討会と、環境教育検討会という、2つのワークショップを運営し、進行管理することを求められたが、これらの業務を大胆に外部民間委託した。

行政事務局は、学校や保護者との信頼関係の構築と調整、リスク管理、騒音・防塵管理、仮設校舎への引越、解体工事後の設計変更への柔軟な対応、予算、補助金申請、議会对応、住民に対する説明責任等を担い、最終コンセプトへの責任、プロジェクト全体の軸を担うこととした。

軸がぶれそうになると、サポート本部から励ましの訪問があった。ホームページでの公開や美しい女性スタッフからのアドバイスは、私ならずとも闘志をかきたててくれた。

町議会において、ガラス屋根豪雪不安論が台頭した。これらを払拭するため、特別委員会が開催された。お盆、夏休み返上してのプレゼン資料の作成、説明員として設計担当者が出席し、議会に民間人が答弁で出席してもらったのも前代未聞、今では懐かしい思い出になっている。

環境にやさしいまちづくりを目指す本町にとって、エコ改修は、町民にとっても、歓迎すべき一大事業。それでも、まちづくり懇談会や、広報紙等で、町民との情報の共有に努めた。議会も建設的な意見で応援し、新聞地方版にも好意的に何度と無く取り上げられてきたことが追い風になったと思う。

質的に極めて高いものを要求され、「改修したいのは山々だけれども」と尻込みする自治体もあると聞くが、お金に換えがたいご褒美を町は得ることになる。職員の立場によって思いは異なると思うが、多くの著名な専門家との出会いと、もたらされた知見。協働の仕組やスキルの体得。信頼、忍耐、共感、誇りなど、人としての本質的な有り様等々枚挙にいとまがない。

環境建築技術等によって、志があれば、新しい機能を有して、公共施設が再生できるということ、子供達、地域は、目の当たりにして学んだ。

本物の教材で学んだ子供達の中から、いつしか環境建築技術者が誕生することが、町の夢の一つである。